ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラムの修了の要件についての申し合わせ
（案）

平成２９年１０月５日
企画運営委員会

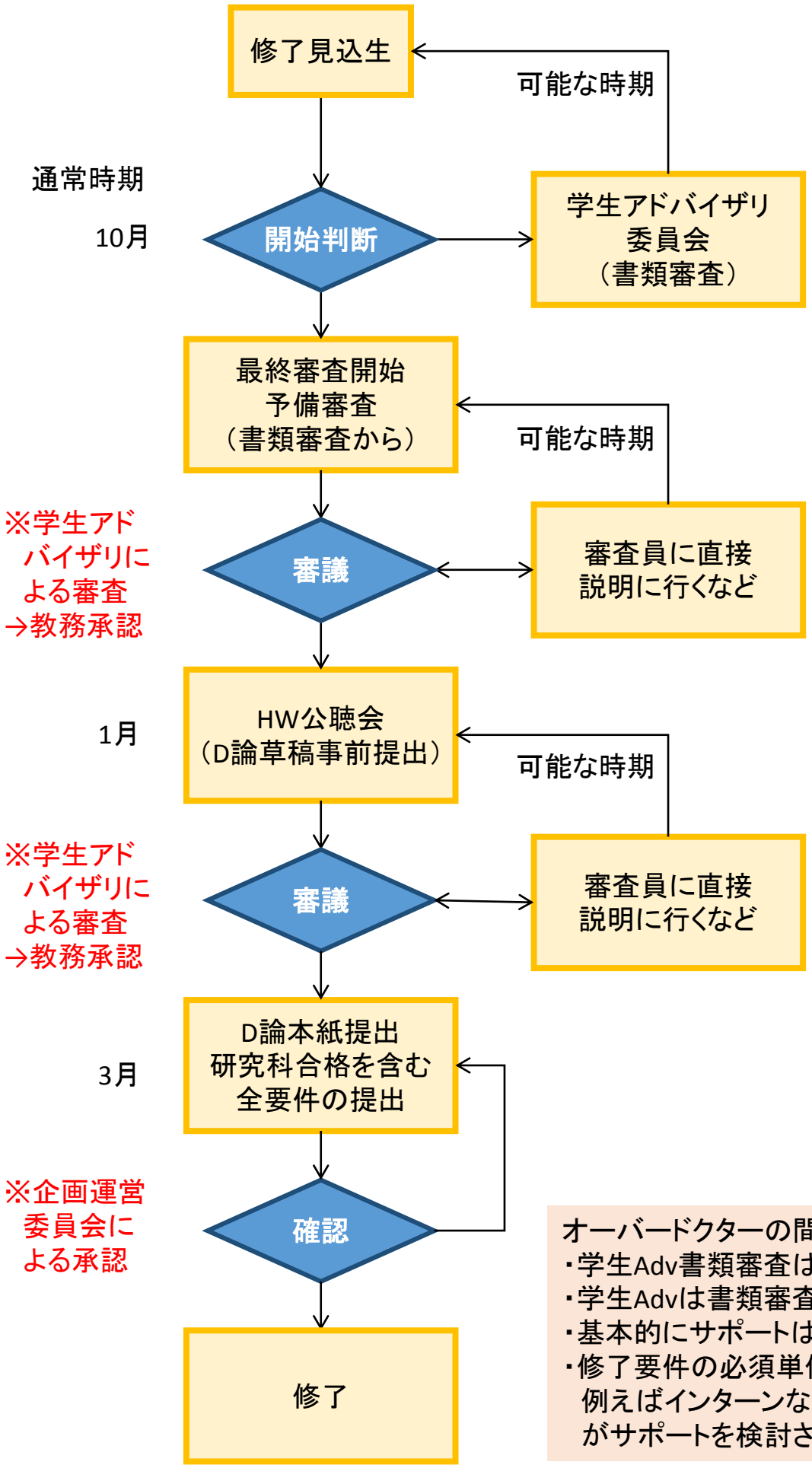
- ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラムの修了については、同プログラムの 40 単位を修得した上で以下の 7 つの要件を満たすことを原則必要とする。公開研究発表会を開催する前に５）を除く要件について公開研究発表会の審査委員により要件をチェックし５）の結果を含めて審査書を最終審査委員会（企画運営委員会）に提出する。最終審査委員会（企画運営委員会）は審査書をもとに修了について合否を判定する。

１）英語で書かれた学位論文の提出
２）英語で書かれた国際雑誌論文の提出（筆頭著者、学位論文の主要な部分）
３）融合研究の成果物（異なる研究科の教員、学生との交際雑誌論文/国際会議発表）
４）予備審査の合格
５）英語による公開研究発表会の審査の合格
６）GPI スキル熟達度がグローバル・リーダーの資質に必要なレベル
７）TOEIC730 点以上

- 要件を満たす時期については原則として公開研究発表会の審査の日までとする。
- 履修生が上記の要件をすべて満たさない場合は個別に最終審査委員会（企画運営委員会）で議論する。
  - 例えば、１）、２）、７）の要件については、研究科が別に定める研究の公表に関す学位審査の要件を満たし、公開研究発表会の審査において同等の能力を有すると判断された場合、審査書にその内容を明記し、最終審査委員会（企画運営委員会）の判断で合格とすることを可能とする。
- 研究科の修了要件を満たさず、年限内に学位修了とならず単位取得退学を履修生が選択する場合においては、１）、２）を除く他の要件を満たした上で
  - 学位論文の主要な分を含む英語による研究説明書類を提出し、英語による公開研究発表会に合格した場合、単位取得退学の時点で本プログラムの修了証を授与する。
  - 修了書が発行された場合、単位取得退学後研究科で博士論文の修了が決まった時点で学位記に本プログラムを修了したことを明記する学位を授与する。
  - ７）の条件について満足していない場合、最終審査委員会で能力について判断できるものとする

以上

※赤字はコメントです



オーバードクターの間
- 学生Adv書類審査は毎年受ける
- 学生Advは書類審査のみ
- 基本的にサポートは無い
- 修了要件の必須単位などに絡む場合、例えばインターンなど、優先はされないがサポートを検討される。

Ⅱ．リーダーを養成する学位プログラムの内容について

１．授与する博士の学位の分野・名称

本学位プログラム修了者に授与する博士の学位の専攻分野・付記する名称について、記入してください。

学位の分野：情報科学、生命機能学、工学、理学、学術
付記する名称：**ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム**
学位記への記載：ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラムにより本学大学院
〇〇研究科△△専攻の博士課程を修了したので博士（□□）の学位を授与する。
（〇〇は研究科名、△△は専攻名、□□は学位の分野）

２．学位授与の方針

学内規則その他に定めることを想定し、本学位プログラムの学位授与方針を具体的に記入してください。

学位授与に当たっては、予備審査、研究発表会、論文審査の一連の審査により、それに合格することを必須とする。論文審査を受けるに当たっては、英語で書かれ国際雑誌に掲載された主論文（筆頭著者として発表した論文）少なくとも１編を提出することを要する。また、本学位プログラム の単位取得とインターンシップなど本学位プログラムの修了要件を満たしていること、語学能力については「どのような状況でもコミュニケーションを取る能力を少なくとも有している」ことを保証するため、TOEIC で 730 点以上のスコアを取得していることを前提とする。主論文は学位論文の主要な構成部分をなしている必要があり、学位論文は英語で書かれていることを必要とする。予備審査は、研究科を跨ぐ委員から構成される審査委員会（主査（所属する研究室の長）、副査２名以上（研究室とは異なる研究科の教員、大学外の研究者 各 1 名以上）で行う。予備審査においては、専門家として自らの研究成果を理解し説明できることに加え、情報科学、生命科学、認知・脳科学、ロボティクス の融合領域で行われた融合研究の成果について、他の研究分野への波及効果を他の研究者にも容易に理解させることができるかを重要な基準として評価 する。さらに、主査、副査２名出席の上で、公開で英語による研究発表会を行い、プレゼンテーション能力も合わせて審査する。以上の審査に合格した学生に対して、学生の所属する研究科の博士課程委員会で従来の学位論文審査を受け、所属研究科の学位が認定される。これを受け、未来戦略機構が最終認定を行い、大阪大学総長から本プログラムの学位が授与される。

また、本学位プログラムにおいては、博士課程 1 年次において Preliminary Qualifying Examination (Pre-QE) に合格した者のみが 2 年次以降のプログラムに進むことを可とする。博士課程 3 年次において、Research Qualifying Examination(R-QE)に合格することを必要とする。本学位プログラムは、5 年の在籍を原則必要とするが、修了要件を満たし、優れた研究成果を挙げたものについては短縮修了することを可能とする。

３．課程を通じて修得すべき知識・能力

学内規則その他に定めることを想定し、本学位プログラムを通じて修得すべき知識・能力について具体的に記入してください。

激変する情報化社会で生起する問題に対応できる情報技術として、生命システムなどが持つ仕組み（柔軟性、頑強性、持続発展性）を有し、人間・環境に調和した情報社会を構築するための情報ダイナミクスを扱う技術であるヒューマンウェアの確立のもと、本学位プログラムを通じて育成するネットワーキング型博士人材が修得すべき知識・能力として、以下の三つを想定している。

(1) 生命のダイナミクス、認知のダイナミクス、情報のダイナミクスを理解し、複雑化する情報社会の

問題を解決するヒューマンウェアを活用する知識・能力

(2) 情報科学、生命科学、認知・脳科学、ロボティクスを理解することでさまざまな問題や分野に対応できる知識を備え、さらに価値観が激変する現代社会においても人間の社会活動の写し絵として構築される巨大情報ネットワークを介して新たなサービスや産業を創起していく能力、新たに課題を設定する能力を備えることにより、柔軟かつ頑強にリーダーシップを発揮して世界を牽引できる真のエリートとして自ら成長できる資質

(3) 境界が明確でない激変する社会情勢に対して、根幹を頑強に維持しつつ柔軟に適応する「持続発展型のシステム」を、生体に原理を学び、認知研究を通して創出される知識を備え、高効率性を主に追求した 従来のイノベーションの方向性を転換し、ヒューマンウェアという視点に基づく新しい情報システムをデザインするためにリーダーシップを発揮する能力

また、以上の 3 項目の知識・能力を備えるため、本学位プログラムがネットワーキング型人材の基礎として涵養する資質は、激変する社会情勢における諸課題を俯瞰しつつ、新たなニーズを掘り起こし、チームを形成して解決に当たるための「プロジェクト創成・開発に関わるデザイン力」、「国際的な視野とそれに基づくコミュニケーション力」、「人と協働してプロジェクトを遂行できるマネジメント力」に関する十分な知識と実践的能力である。